

南半球便り（その 14）：勲章伝達式

5 月 12 日

大使の大切な職務のひとつに、天皇陛下から授与される勲章を海外で伝達する役目があります。伝達の際には、受章者に大使館にお越しいただき、陛下から授与された勲記と勲章を私から手交することとなります。キャンベラの大使館では、最近相次いで三人の方に伝達をしました。

1. 顕彰される功績

（1）ジョン・マッカーシー元駐日大使

長年豪州の外交官として活躍され、2001 年から 2004 年まで駐日大使。日本の他にも、ベトナム、メキシコ、タイ、米国、インドネシア、インドの大使を歴任。お祝いのスピーチ【[ここで、ご覧いただけます。](#)】でも申し上げましたが、まさに大使ポストのローヤル・ストレート・フラッシュのような経歴。日豪関係増進の功績で、令和 2 年春に旭日重光章を受章されました。



（2）池田俊一元豪州国立大学（ANU）日本センター長

近年の国際的な大学ランキング(QS 世界大学ランキング調べ)で全豪ナンバーワンの ANU で 35 年にわたり日本語講師を務め、日本語教育の振興に多大の貢献をされました。また、40 年以上にわたり豪日協会の活動に参加し、日豪両国の友好親善にも尽力。それらの功績で、令和 2 年秋に旭日双光章を受章されました。【[祝辞・リンク](#)】



(3) ブルース・ミラー元駐日大使

豪州外務貿易省きっての日本通。高校時代の交換留学に始まり、関西学院大学留学を経て、外交官として、大使時代を含め3度にわたり日本に在勤。日豪関係増進の功績で、令和2年秋に旭日重光章を受章されました。【[祝辞・リンク](#)】



2. タイミングを選んでの心づくし

読者の中には、「令和2年の叙勲なのに、今頃伝達式をやるのは何故？」と訝る方もおられるでしょう。コロナ禍の影響なのです。キャンベラにおいては、長らく大人数を集めてのレセプションが禁止されていました。また、日豪間の往来制限のために、勲記・勲章の日本からの移送に時間を要したという事情もありました。

キャンベラでのコロナの影響が落ち着いた今、盛大にお祝いをするにとしました。お三方にそれぞれご相談し、各自が希望する方法（少人数の食事会、大人数のレセプション）で大使館として叙勲のお祝いをし、これまでの多大の功績に敬意を表させていただくこととした次第です。



レセプションでの食事

3. 日本との絆の強化

叙勲は、受章者の功績に光を当てるだけではありません。こうした伝達式に、ご本人とゆかりのある方々をお招きして共に祝い、かつ、食事を差し上げることを通じて、日豪関係の重要性や日本語教育の大切さを広く再確認することができます。また、功労者の献身と貢献を決して忘れないという日本の国柄を理解してもらう格好の機会でもあるのです。

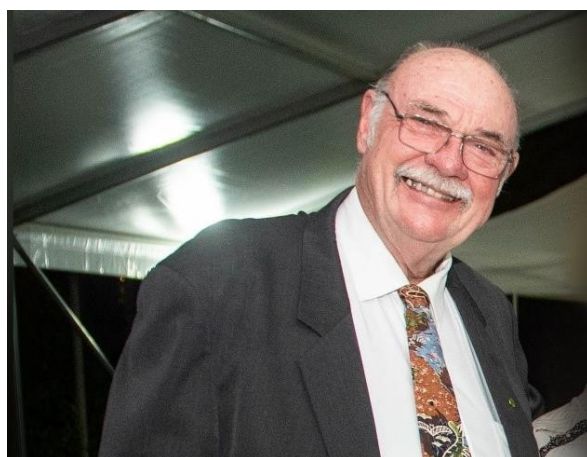
実際、ミラー大使の伝達式レセプションには、日豪関係に携わる豪州人が120人余りも駆けつけてくださり、大使公邸は熱気と歓声に包まれました。

4. 叙勲は続く

令和3年春には、ジュリア・ギラード元首相が旭日大綬章、ウォレン・エンチ元豪日議連会長（下院議員）が旭日重光章を受章されました。叙勲の内報を私から差し上げた際、お二人に大変喜んでいただいたことが実に嬉しく、強く印象に残りました。



ジュリア・ギラード元首相
(2011年4月、南三陸訪問時)



ウォレン・エンチ元豪日議連会長（下院議員）

いずれ、叙勲者のご都合を踏まえて伝達式、レセプションを開催すべく、準備をしています。
日豪関係のひとつの重要な一里塚。盛大にお祝いしたいと存じます。

山上信吾